

# 与路島にソーラー電気3輪車

TARGET amamiが新事業

## 脱炭素社会へ「全国発信」

瀬戸内町

瀬戸内町に本社を置くTARGET社(MintoBrown代表取締役社長)はこのほど、関連会社を合併し、奄美関係事業を新たに立ち上げたTARGET amami社(立石聡明社長)へ集約した。また、奄美・沖縄の世界自然遺産登録も見据え、ソーラー電気3輪車の全国販売・レンタル事業を開始すると発表した。第1号車両を同町与路島に導入し、実証事業を行う。事業担当者は「脱炭素社会に向けた新しい観光の在り方を奄美から発信したい」と話した。



TARGET amami社の瀧取締役(左)と車両整備中のソーラー電気3輪車(提供写真)

真一郎氏(56)を新たに迎えた。

同社のソーラー電気3輪車は、家庭用電源で充電する電動式車両をベースとし、車両上部にソーラーパネルを設置したもの。通常走行で約50分、ソーラーを使用してプラス10分ほど走行できるといふ。最大3人乗りで、最高速度は45分。運転するには普通自動車免許が必要。

奄美市名瀬の奄美マイカーセンター(喜元健一郎代表)が車両の改造と整備、TARGET amami社が商品企画と広報、レンタル事業などを担当する。また、関連会社と連携し、奄美群島のほか全国34国立公

園と418有人離島で、販売・レンタル事業の展開を目指す。

第1号は9月上旬ごろに与路島に運入れる。瀧取締役は「国立公園や世界自然遺産にふさわしいエコな乗り物であると同時に、カソリンスタンドのない離島での観光展開にも期待できる。住民の要望を踏まえながら運用方法を考え、地元利益をもたらす存在にしたい」と話した。

TARGET社は同社を存続会社とし、同町のTARGET DX社(立石聡明代表取締役社長)とNPRS ツーリズム奄美社(平田大代表取締役社長)の3社を合併した。

## 学校設立60年で初開花

### アオノリュウゼツラン

笠利町の緑が丘小

奄美市笠利町の緑が丘小学校(菊池悟校長、児童22人)でこのほど、数十年に1度しか咲かないとされる植物・アオノリュウゼツランが開いた。60年前の学校設立時に正門前に植えられたもので、開花したという記録はなく、見る人を驚かせている。

アオノリュウゼツランは、メキシコなど熱帯域に

自生する常緑多年草。お酒の原料や観葉植物として栽培もされている。地面近くに葉を広げ、茎は真上に高く伸びる。日本では植え付け後30〜50年で開花するとされている。花は数週間散り、株も枯れる。

同校によると、開花したのは6月中旬。4月ごろから急成長した茎は高さ約10分に達し、脇芽の穂先に淡

い黄色の花が咲いた。最初に気付いた3年生の宮下千楽君(8)は「お店で見たことがあり、印象に残っていたが、まさかと思った」

